平成15年（2003年）7月10日

廃棄物学会ニュース
The Japan Society of Waste Management Experts
No.75
廃棄物学会

平成15年5月27日

平成15年度 総会報告

同時開催：平成14年度廃棄物学会賞表彰式

平成 15 年度廃棄物学会総会は、平成 15 年 5 月 27 日に中央大学駿河台記念館（東京都千代田区）にて、正会員 78 名の出席と 851 名の委任状をあわせ、会則に定める定数（正会員の 4 分の 1 以上）を超える出席を得て開会された。

まず、高月会長が挨拶に立ち、SARS 問題を振り返ると公衆衛生が原点であること、廃棄物問題も原点を大切にしたいこと、韓国訪問時のWカップ記念博物館でごみと暮らしの記録を後世に残していることに感銘を受けたことなどを述べ、あわせて学会員の活躍に謝辞を表明した。

引き続き、出席者から若村保二郎氏が議長として、杉島和三郎氏と中明和氏の両氏が議事録署名人として選出され、議事に入った。

まず、藤本総務委員長から第1号議案「平成 14 年度事業報告」が報告され、満場一致で承認された。次いで第 2 号議案「平成 14 年度収支決算」について報告の後、藤原監事から「監査結果報告」が行われ、審議の結果、満場一致で承認された。さらに、第 3 号議案「平成 15 年度事業計画（案）」、第 4 号議案「平成 15 年度収支予算（案）」についても審議が行われ、各々満場一致で承認された。

▲ 総会の様子

▲ 高月会長と受賞者の皆さん

休憩時間を挟んで、平成 14 年度廃棄物学会賞表彰式が行われた。

功績賞は、学会創設以来の活動に貢献された鍋島淑郎氏、森下忠幸氏、若村保二郎氏の 3 氏に贈られた。

論文賞には、石井一英氏、古市徹氏、今井紀和氏、和田卓也氏の「廃棄物起因の土壌・地下水汚染現場への数値シミュレーションと比抵抗法の適用」（廃棄物学会論文誌第 13 巻第 5 号掲載）が高い評価を得て選ばれた。

著作賞は、田中勝氏と田中信壽氏に贈られた。両氏の著書「循環型社会構築への戦略」が高く評価されての受賞となった。

奨励賞は、山田正人氏と渡辺信久氏に授与された。山田氏については、廃棄物最終処分場の浸出水、資源循環システムに関する研究など一連の研究、活動が高く評価された。また、渡辺氏については、都市ごみの性状に関する基本的な事項を整理し、焼却処理における元素の挙動に着目した研究活動が高い評価を得た。

なお、受賞記念講演が本年 10 月 22 日からつくば市で開催される第 14 回廃棄物学会研究発表会において予定されている。

（総務委員会　加藤秀平　記）

■□■□　年会委員会・研究委員会　□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■

平成15年5月27日～5月28日

平成15年度研究シンポジウム開催報告

平成15年度研究シンポジウムを5月27日（火）、28日（水）の2日間、中央大学駿河記念館（東京都千代田区）において開催した。秋に開催する研究発表会は個人会員の発表の場であるが、これに対して研究シンポジウムは、テーマを設定してまとまった議論、専門的な討論を行うことを趣旨として、2000年から開始した。企画委員会が実施する市民シンポジウムとは、より専門的な内容とすることが異なっている。

昨年はソフト系が7件のうち5件を占めたが、今回は①産廃不法投棄、②サーマルリサイクル、③被覆型処分場、④廃棄物の試験法、⑤一般廃棄物有料化、⑥循環型社会の廃棄物計画というように、秋の研究発表会で用意している大きな分類をほぼカバーしたテーマが並んだ。1日目は①と②であったが、どちらも多くの聴衆を集め、特にサーマルリサイクルは立ち見が出るほどの人気であった。2日間の参加者数は過去3回とほぼ同数の約300名であった。

シンポジウムの企画は研究委員会と年会委員会が分担しているが、2会場とした場合には、参加者が一方のシンポジウムしか聞けない、シンポジウム主催側としては参加者数の心配がある、との意見がある。1会場とした場合には、テーマ数の限定などの問題があり、現在、総務を含めた3委員会合同で、今後の研究シンポジウムの実施方法について検討を進めているところである。　（年会委員会幹事　松藤敏彦　記）

▲　シンポジウムの様子

■□■□　国際委員会　□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■

平成15年5月15日～5月16日

韓国廃棄物学会に参加して

ソウルから特急で30分の距離のスーウオン市で平成15年5月15日、16日に行われた韓国廃棄物学会2003年度春季学術研究発表会に参加した。

研究発表会の初日には、開会に先立ち、全員起立して国歌が演奏され、韓国の会長挨拶の後、日本から高月会長が挨拶をされた。

国際セッションでは、日本から10編の論文が提出され、4編がオーラルセッション、6編がポスターセッションで発表された。オーラルセッションでは活発に質疑応答がなされ、時間を超過するほどであった。

研究発表会の合間をぬって、高月会長、横田国際委員長他2名と韓国廃棄物学会の副会長、国際・編集の各委員で、日本の廃棄物学会研究発表会の国際セッションにおける企画について打ち合わせた。日韓で意見交換できるようなシンポジウムを提案したところ、韓国側から同意を得られたので、テーマ、出席メンバーなど具体的な計画を立案して韓国側に正式に依頼することになった。

その後、仁川の近くの首都圏埋立地と2002年サッカーワールドカップ会場近くの公園を案内してもらった。

首都圏埋立地は「埋立てから夢の公園へ」と書かれ、広大な敷地はきれいに整備され、トラックから排出されている近辺以外はほとんどごみが見当たらなかった。ごみから発生するガスは回収され、ガスエンジンで発電し、排水も集約して処理されていた。

サッカーワールドカップ公園は元ごみの山で、悪臭がひどく評判の悪かった所のようであった。しかし、現在ではきれいに整備され、2つの山のうち、ひとつはゴルフ場、もうひとつは散策できる公園となっていた。近くに記念館が建てられ、それまでのごみ埋め立てと整備の歴史や周辺の地形の模型等が展示されていた。環境問題に対する韓国の意気込みが印象深かった。　（国際委員会　鈴木明郎　記）

▲ サッカーW杯会場とごみの山を整備した公園のモデル

□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□ 関西支部 ■□■□

平成15年4月12日

「市民と学生のためのセミナー ～循環型社会の途上で～」開催報告

平成15年4月12日(土)、大阪市立大学文化交流センターホールにおいて、関西支部が初めて主催した「市民と学生のためのセミナー ～循環型社会の途上で～」が行われた。

まず武田信生支部長から開会の挨拶の後、名古屋市リサイクル推進センターの舟橋博氏から、「ごみ非常事態宣言で名古屋市は？」と題して、藤前干潟を保全するために「ごみ非常事態」を宣言した名古屋市のごみ減量化の取り組みを市民の立場からご紹介頂いた。「ごみ問題を行政のみに委ねず、市民・事業者の「意識改革」と行政の「しくみ」への市民の参加によって 3 者のパートナーシップが成立し、市民が情報発信や仕組み作りを自主的に行い積極的に活動できたことが、「ごみ非常事態宣言」の前と比較してごみ排出量を23%低減できた成功要因である。」として、具体例を示して述べられた。

続いて、姫路工業大学環境人間学部の岡田真美子教授から、「ライフスタイルの転換を目指して」と題して、宗教的感性からみた環境問題の捉え方についてご講演頂いた。日本に根付く文化・伝統を紹介しながら、「今本当に危ないのは地球の環境ではなく人の生存に適した環境であること、環境問題の解決のためには生き方や価値の転換を図る必要があること、ものを見るときに便利か楽かを考えるよりは自分がこれを持つことがもったいなくはないかを常に問い続けること、もったいないことをするということを気持ち悪く思う感性を育てることの必要性」をわかりやすく訴えられた。

関西支部会員以外の参加も多く、約 120 人の聴衆が熱心に聞き入り、活発な議論がなされた。

(関西支部 石橋憲明 記)

▲ セミナーの様子

□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□ 中国・四国支部 ■□■□

平成15年5月16日

「水・大気・廃棄物中のダイオキシン問題の現状と課題について」開催報告

廃棄物学会・大気環境学会・水環境学会の3つの中国四国支部合同講演会が、5月16日 鯉城会館(広島市)にて開催された。

今回の合同講演会では、「水・大気・廃棄物中のダイオキシン問題の現状と課題について」というテーマで、水環境学会から土屋充氏((財)岡山県環境保全事業団)による「水系試料におけるダイオキシン類起源の推定」、大気環境学会から中野武氏(兵庫県立健康環境科学研究センター)による「環境大気中のダイオキシン類モニタリング－異性体分析と起源推定－」、廃棄物学会から野馬幸生氏((独)国立環境研究所)による「廃棄物最終処分場におけるダイオキシン類の挙動 」の講演が行われた。

野馬氏の講演では、最終処分場における埋立廃棄物や浸出水等の分析データを元に、浸出水処理施設でのダイオキシン類除去特性を含めた最終処分場におけるダイオキシン類の収支等が報告された。

講演会の後、パネルディスカッションが森忠繁氏(近畿福祉大学教授)の司会で進められ、講演者及び参加者からの質問等を交え、ダイオキシン類に関する活発な討論がなされた。

当日は、大学・研究機関・企業・行政機関等から約100名の参加者があり、急きょ補助席が用意される程の盛況であった。また、懇親会にも多数の参加者があり、3 学会間の交流を深めた。 (中国・四国支部 宗村邦嗣 記)

▲ 講演会の様子

訃　報　～平山直道先生ご逝去を悼む～

廃棄物学会初代会長、廃棄物学会名誉会員、東京都立大学名誉教授平山直道先生には、かねてから病気療養中のところ薬石効なく、平成15年5月27日午後10時22分ご逝去されました。享年78歳でした。

平山先生は、昭和22年9月東京帝国大学ご卒業後、東京大学大学院を経て、昭和27年東京都立大学に奉職され、昭和39年同大学教授になられました。昭和58年から62年まで工学部長を勤められ、昭和63年同大学を退官、名誉教授となられております。その後、千葉工業大学で教鞭をとられましたが、この間厚生省生活環境審議会をはじめ、東京都清掃審議会など国、地方自治体等の各種審議会、委員会でご活躍されました。また、ターボ機械協会会長、日本機械学会副会長、ガスタービン学会会長を歴任され、平成2年3月廃棄物学会設立とともに初代会長に就かれております。先生のご活躍は、ご専門のタービン分野、焼却設備などの環境装置分野にとどまらず多方面にわたり、卓越した知識と円満なお人柄で常に斯界の第一人者としてご指導いただきました。これらのご功績により、平成14年に勲二等瑞宝賞を受勲されましたことは、まだ耳に新しいところです。

廃棄物学会の設立と発展にご尽力いただいたご功績に深く感謝申し上げ、心からご冥福をお祈りいたします。

平山直道先生を偲ぶ会開催のお知らせ

お亡くなりになられた平山先生を悼み、次のとおり「平山先生を偲ぶ会」が開催されます。関係各位のご参加をお待ち申し上げます。

1)日　時：平成15年7月22日(火)　午後6時
2)場　所：霞会館（東京都千代田区霞ヶ関）
3)会　費：10,000円（当日会場で申し受けます。）

※準備の都合上、参加される方は平成15年7月15日までに国際コンベンション㈱「平山直道先生を偲ぶ会」実行委員会事務局(FAX：03-5565-9550)へご連絡ください。

ごみ文化研究部会会員募集

本年度より廃棄物学会の研究部会として発足しました。

廃棄物は「社会を映す鏡」といわれるように、国によって、都市・地域によって、また時代によっても異なります。しかし、廃棄物およびそれに関わる行政、法令、言葉などとそれら社会との関係についての系統的な調査や研究は、十分になされていないという状況です。例えば「廃棄物」の言葉一つをとっても、120年ほど前の造語と推定され、本格的に使用されるようになってから30余年といわれておりますが、そのような歴史認識はあまり持たれていないのが実情と思われます。

一方、この数十年来、廃棄物をめぐる状況は大きく変化し、それに伴って様々な出来事があり、また処理システムも変遷しました。そして、それらに関わった人々の記憶、施設、道具や資料等が急速に忘れ去られ、また無くなろうとしております。これらの現況は、来るべき循環型社会システムの形成にあたって、憂慮すべきことと考えます。

近年の廃棄物処理に関わる技術、行政、住民運動などの歴史的な経緯に関する調査、研究の進展を図るべく、意欲をお持ちの方のご参加をお待ちしております。

（代表者：福岡大学　松藤康司）

1) 申込方法：①氏名、②勤務先・所属等、③連絡先、④電話番号、⑤FAX番号、⑥E-mailアドレス、⑦関心のあるテーマ・現在の研究課題等をご記入の上、E-MailまたはFAXにてお申込ください。
2) 申 込 先：石井明男（事務局）
E-Mail：VEG04501@nifty.ne.jp　FAX：0422-21-2772
3) 募集締切：平成15年7月31日（木）

＝事務局夏季休暇＝
平成15年8月13日(水)～15日(金)

☆☆事務局だより☆☆

◆梅雨・・・恵みの雨の季節となりました。学会員の皆さん、いかがお過ごしでしょうか。気象庁から発表された5月の天候を見ると、1965年5月27日に房総半島に上陸して以来の早さで上陸した台風4号の影響もあり、月降水量が九州を中心に平年の2倍を超える一方、北海道・東北地方では平年の30%～50%の地点が多数あるなど、天候不順が心配されます。「水」資源について考えさせられるものです。

◆平成14年度循環型社会の形成の状況に関する年次報告（循環型社会白書）が公表されました。3月14日に閣議決定された循環型社会基本計画をわかりやすく紹介する内容となっています。自然の循環、経済社会の循環についてあらためて考えてみませんか。◆5月27日に開催された平成15年度総会で、事務局経費に関して質問が出されました。事務局経費は決して十分とはいえない状況です。長引く不況の中、どこの組織も厳しい状況ですが、会費の納入、学会活動の拡大・充実に会員の皆さまのご協力をよろしくお願いします。　（大塚康治　記）

会員状況	H15.5.31現在 （　）内は、H15.4.1以降の増減
正会員	3,598（42）
学生会員	288（22）
外国人会員（DM）	24（6）
公益会員	114（2）
賛助会員	195（-11）
登録団体市民会員	1（1）
計	4,220（62）

注）外国人会員(DM)は、廃棄物学会外国人等会員規程第4条に定める会員を示す。

廃棄物学会ニュース No.75　　平成15年7月10日発行
廃棄物学会　〒108-0014 東京都港区芝5-1-9 豊前屋ビル5F
Tel.03-3769-5099　Fax.03-3769-1492
http://www.jswme.gr.jp
古紙配合率100%再生紙を使用しています